

スクラム



日光市立今市第三小学校 第6学年 学年通信『第16号』平成25年11月26日

やまなし

国語の学習で、宮沢賢治の作品「やまなし」を学習しました。単元の指導目標は、「場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる」です。

宮沢賢治の作品は、読んでもすぐに分かる作品と何を訴えているのかすぐには分かりにくい作品があります。「グスコーブドリの伝記」などは主題が分かりやすい作品ですが、「銀河鉄道の夜」や「やまなし」は、「主題はなんであるか?」と問い合わせられると、はっきりと答えにくい作品です。

そこで、次の二つの点からこの分かりにくい「やまなし」を読み進めました。

まず、作品全体にちりばめられている比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語などから賢治の独特な世界観を味わわせ、そこから小さな谷川の情景を想像させます。

※比喩表現…「日光の黄金は、夢のように～」「小さなきりの形の水晶のつぶ」など

擬声語……「水はサラサラ鳴り」

擬態語……「かぶかぶ笑った」「まるでぎらぎらする」「光のあみはゆらゆら」「ぽかぽか流れて」「にじがもかもか」など

色彩語……「青白い」「青く暗く」「光の黄金」「白いやわらかな丸石」など

次に、五月と十二月とで表現されている「生と死」「奪うものと与えるもの」「光と影」のように対比された世界観から、主人公のカニの兄弟の気持ちの変化を読み取らせます。

※対比…《五月》かわせみ 日光 登場するものに命がある 元気・勢いのある感じ

↓ ↓ ↓
《十二月》やまなし 月光 鉱物など命がない

↓
静かな感じ、おだやか

「雨にもあてず」

雨にもあてず
風にもあてず
雪にも 夏の暑さにもあてぬ
ぶよぶよの体に
たくさん着込み
意欲もなく
体力もなく
いつもぶつぶつ不満を言っている
毎日塾に追われ
テレビに食いついて遊ばず
朝からあくびをし
集会があれば貧血を起こし
あらゆることを
自分のためだけに考え省みず
作業はぐずぐず

注意散漫ですぐに飽き
そしてすぐに忘れ
立派な家の自分の部屋に閉じこもり
東に病人があれば 医者が悪いと言い
西に疲れた母あれば 養老院に行けと言い
南に死にそうな人あれば 寿命だと言い
北に喧嘩や訴訟があれば 眺めて関わらず
日照りの時は 冷房をつけ
寒い時は 暖房をつけ
みんなに勉強勉強と言われ
叱られもせず
怖いものも知らず
こんな現代っ子にだれがした

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 改作編

12月の主な学校行事予定

日	月	火	水	木	金	
1	2 文書館授業	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13 大掃除	14
15	16	17	18 租税教室	19	20 終業式	21
22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28
29	30	31				